

生け花文化の衰退に対するポジティブな提案

A Positive Proposal to Counter the Decline of Ikebana Culture

k a n z a s h i

一輪で魅せる生け花



「一輪」で魅せる生け花

年々衰退していく生け花文化に対してのポジティブな提案。古臭い、堅苦しいなどのネガティブなイメージを払拭し、生け花特有の「一手間」という要素のみを抽出した。一輪挿しという簡単な行為に落とし込むことで手軽に生け花の魅力を伝える媒体をデザインした。

Ikebana That Showcases the Beauty of a Single Element

My proposal aims to infuse the declining culture of ikebana – the Japanese art of flower arrangement – with positive vibes. To wipe off the dust of its negative image as an “outdated” and “formal” art, I focused on a unique factor in ikebana known as the “one-touch” method of arrangement. In my graduation project, I designed a medium that conveys the subtle charm of Ikebana by applying a simple motion to a single-flower receptacle.

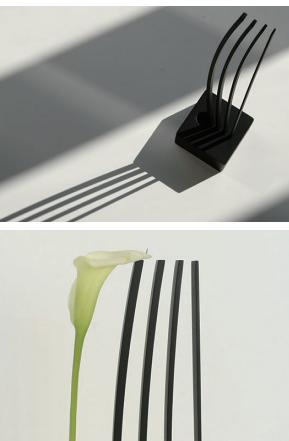
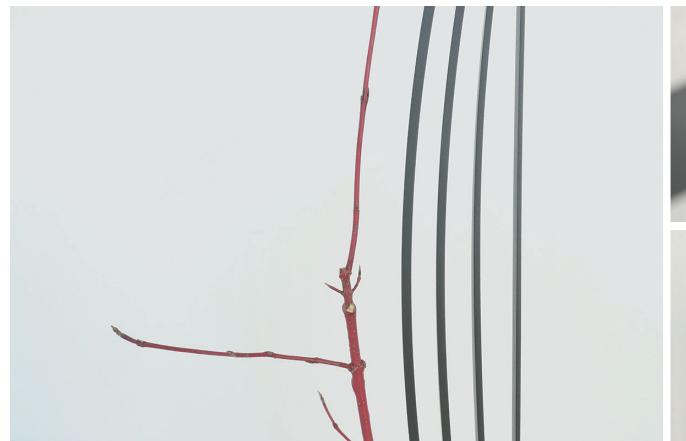
「切って」整える

生け花では花材を「切る」という所作は基本の行為である。その上、切る所作一つ一つには深い意味を持たせることができる。例えば花の高さを変えることによって空間を作り出したり、切る方向を変えることによって花の角度を調整することができる。そんな切る行為を誘導し、一つの作品を作り上げる喜びを表現した。



「曲げて」整える

生け花には「生花」と呼ばれる伝統的な型を持ついけばな様式がある。その生花で主に使われる手法として溜める（曲げる）という所作がある。曲げる所作は草花と対話し、気を使いながら行うことになる。その集中力は一人の時間に没頭できるような魅力的な体験を作り出す。そんな行為を誘導し、生け花の深みを表現した。



「バランス」を整える

生け花において重要な構成要素として「バランス感覚」が挙げられる。中でも「重心を捉える」ことは作品のバランスを整えるための重要な所作である。“花と花”の関係性、“花と花器”的関係性、“作品と空間”的関係性により、色々な重心が存在するが、今回は花と花器、作品と空間のバランスを整えることを誘導し、生け花の繊細さを表現した。

